

子どもとつながる，保護者とつながる，教職員とつながる仕事を通して

前シンガポール日本人学校クレメンティ校 教諭

山形県立新庄養護学校 教諭 芳賀功一

キーワード：校務分掌

1. はじめに

シンガポールは在星邦人約23000人とシンガポールの人口（約507万人）に比して、多くの日本人が居留する国である。その中にあるシンガポール日本人学校は、小学部のキャンパスが2つ（クレメンティ校・チャンギ校）ある。本校は22学級児童640人（2011年4月現在）、職員数78人（日本人スタッフ51人、ローカルスタッフ27人）と、世界でも指折りの大規模な日本人学校である。

その中、3年目に「校務主任」という分掌を任されることになった。日本の学校では聞かれない校務分掌である。最初は仕事のイメージがわからず、内容もよく理解しないままスタートすることになったわけだが、幸運なことに前校務主任の方が引き続き同じ職場にいてくれたこともあり、アドバイスをいただきながら曲がり形にも仕事を進めていくことができた。

ここにその概略とともに、日本人学校の生活の様子もあわせて紹介したい。

2. シンガポール日本人学校小学部の特色ある校務分掌と連携の実際

(1) 「校務主任」という仕事について

一言でいえば「校内外環境整備」であり、「児童・教師が快適に学校生活を送ることができるように環境を整える」仕事だということができる。また毎日忙しく動き回る学級担任の窓口となり、ローカルスタッフとのパイプ役として、学校運営が円滑に動くようにする仕事でもある。

言葉で表しても伝わりにくい部分があると思うが、その仕事内容は予算執行・管理や学校施設利用など多岐にわたる。引き継ぎを受けた仕事を進めていくうちにいろいろなことが見えてきて、仕事内容を整理することによって、より動きやすい仕組み（一日の動きや学校行事における動き）を考えることができてきた。

なおクレメンティ校だけでなく、チャンギ校にも同様の分掌がある。

(2) ローカルスタッフとの連携

① オフィス（事務局スタッフ）

校務主任は教師が使用する事務用品や学校で必要とされる事務用品を管理することが仕事の1つである。そこでこれらのものの使用状況を常に把握し、補充するとともに、教師が必要とするものがあれば可能な限り取り揃えておく。職員室にはストアルームと呼ばれる、事務用品庫がある。教職員が使いやすいように、用途ごとに整理しておく。また教師の声に耳を傾け、必要なものがあれば相談してもらるようにした。

そこで登場するのがオフィススタッフである。日本同様、経費節減が謳われているこの頃では、オフィススタッフがローカルから安価でいい品物が手に入るように段取りしてくれる。

また学校行事を行う際に必要な準備関係の段取りもしてくれる。そのために「何を」「どのくらい」「いつまで」といったことを綿密に打ち合わせする。例えば、運動会におけるテント設営は、日本では教職員、PTAで行う場合が多いが、ここではすべて地元の業者が行う。こちらが思い描いたレイアウト通りに設営してもらるように、指示・確認を校務主任が行う。音楽祭の会場設営（雛壇・いす・扇風機設置）も同様である。華や

かな学校行事の裏には、このような縁の下の力持ちたるスタッフの力があるのである。

② メンテナンススタッフ

学校環境整備において、最も欠かすことのできないスタッフである。校務主任はあくまでも校内の環境整備に目を光らせ、修繕が必要な場所や備品で交換しなければならないものがあれば関係部署に連絡を取り、素早く対応していくというのが役割だと感じている。

その対応の窓口になるのがメンテナンススタッフである。当然、英語でのやり取りになるわけだが、英語に堪能ではない私は、「Please to do リスト」というものを作成し、スムーズに仕事ができるようにしてみた。このリストはその日に作業してもらいたいことをあらかじめ整理し、英訳したリストを毎朝提示する。メンテナンススタッフも、毎日の予定があるため、どの時間帯で何をすればいいか理解できるし、作業終了済みかどうか確認できるというメリットがある。

毎月の安全点検で明らかになった不具合箇所のみならず、日常生活において頻繁に不具合が生じた。熱帯気候であるシンガポールは、一年中エアコンを使用（教室）しての学校生活になるため、エアコンをはじめとした電気システムのトラブルが多い。

Today's Please! to do list	08/04/2010
① 2-3,2-4 shoes box painting.	
② PC-room projector switch can't use. (Maybe breaker trouble.)	
③ 3-4,4-2 behind door broken.	
◇ Information	
Entrance ceremony board setting. (tomorrow or day after tomorrow please.)	

Please to do リスト

③ セキュリティースタッフ

校務主任は学校施設利用許可の仕事も受け持つ。利用者・利用団体が手続きに来校するが、学校が休日の時の利用もある。そこでセキュリティースタッフに、事前に「いつ」「だれが」「どの施設を」「どのくらいの時間」利用するのかを伝え、対応してもらう。こうすることにより、学校に関係のある人なのかどうかはすぐ分かる。

また児童は登下校でスクールバスを利用する。スクールバスは学校とバス会社が契約して運航にあっている。クレメンティ校にはバス待機のための十分な駐車スペースがないため、登校時はバスが来た際に児童を指定の場所で降車させ、次々に送り出す。下校時も原則バスが到着した順に駐車待機させていく。

その役割をセキュリティースタッフが担うわけだが、雷雨時はバスを調整しての特別な下校の仕方をとる。本校では「かみなり下校」と呼んでおり、その際の下校の変更をセキュリティースタッフに伝え、バスへの対応をしてもらう。

3. 学校改修工事を迎えて

学校環境整備を進めていく上で、大きな出来事があった。学校改修工事である。1975年ウェストコースト校舎からクレメンティ校舎へ移転してから、1984年の小中学部分離以来の大規模な工事である。私も計画の輪に加わり、職員室の要望等を取りまとめて業者に伝え、よりよいものにしていくという役割をした。校舎の老朽化に伴い、計

画的に全面改修を行うことになった。モデルルームを作るなど、使う側の教師から実際に見てもらい、最大限教師の声を反映させた教室作りが進められた。

◇教室及び児童トイレの改修（第一期工事 平成22年7月～）

この年の夏休みが工事期間にあてられた。一学期終業式の放課後には、すべての普通教室から物が保管場所へと移された。荷物移動計画や搬入計画も校務が担当し、教師とメンテナンススタッフが協力して作業にあたった。夏休み中は私も時間を見て、工事の進捗状況を担当者に確認したり、写真に記録したりした。工事に携わる方々は、文字通り不眠不休で工事にあたった。着々と出来上がっていく教室を見て、うれしさがこみ上げてきたことは忘れられない。



古い教室の取り壊しの様子



新しい教室での学習の様子

◇教室移転計画（第二期工事 平成23年未定）

在職中にはひと通り教室及びトイレの改修工事が終わり、工事後の不具合などから生じるメンテナンスが要求された。特に水周りの問題が多く、その都度メンテナンススタッフを通して、工事業者と話し合いを持った。

そして次のステップである職員室、事務室、特別教室の移動が計画されることとなった。上記の場所の移動先や工事時期などについて打合せが持たれ、次の校務主任へと引き継がれることになった。

4. 個性豊かなPTA活動

クレメンティ校の保護者はとても協力的で、楽しい学校づくりに一生懸命である。PTA三役の方々を中心に、活発に活動している。よく職員室に顔を出していただけるので、自然と教職員との関係も深まる。中でも学校開放委員会の活動はとても興味深く、学期に一度、学校を会場にイベントを行う。昨年度は「クレッ子チャレンジランド!」「クレッ子秋祭り!」「先生ランド!」を企画し、たくさんの児童、保護者を集めて会を盛り上げた。教師は担当の学期と一緒に活動するのだが、私は一年目から毎回参加させていただいた。保護者の方々が頭をひねり、活動計画を立てて、とても楽しそうに準備・運営する姿にとっても共感した。次はどんなことをしようかと担当の方々と一緒に考えるのがとても楽しかった。クレ校の名物といってもいい活動だった。

5. おわりに

縁あって赴任させていただいたシンガポールは、とても親日的で思わず海外で生活をしていることを忘れてしまうほど、地元の人々ともかかわりが持てた。もちろんクレメンティ校での生活もスタッフ、保護者、教師の雰囲気 genuinely 温かく、ここで過ごした3年間は人生においてかけがいのないものになっている。

昨年度、お世話になったシンガポールに別れを告げて帰国したわけだが、3年目に経験した「校務主任」という

仕事は担任外として、客観的に学級担任や学校という役割を見る機会を得ることができ、本当に勉強になった。それとともに、生き生きと活動する子どもたちの陰には、多くのスタッフの支えがあるということを実感した。また校舎改修工事という、学校にとって大きな出来事にも立ち会うことができた。校舎完成半ばで帰国することになったが、生まれ変わったクレメンティ校の校舎を見ること、そして陽気なローカルスタッフに会える日を楽しみにしている。